

令和7年11月

循環のまち・ふくおか推進プラン第2期実行計画原案について

1 ごみ減量施策の実施状況等について

(1)	循環のまち・ふくおか推進プランについて	1 P
(2)	数値目標について	2 P
(3)	令和6年度ごみ減量施策の実施状況（重点3品目）	7 P
(4)	令和7年度ごみ減量施策（重点3品目）	9 P

2 循環のまち・ふくおか推進プラン第2期実行計画原案について

(1)	原案概要	10P
(2)	数値目標及び取組指標の見直しについて	11P

1 ごみ減量施策の実施状況等について

(1) 循環のまち・ふくおか推進プランについて

■ 計画期間

令和3年度 から 令和12年度の 10年間 (基準年度：令和元年度)
第1期実行計画 (令和3年度～令和7年度)
第2期実行計画 (令和8年度～令和12年度)

■ テーマ

以下のテーマのもと、発生抑制と再使用の2Rに重点を置いた3Rの取組みを推進。

みんなでつくろう！ 活力ある未来へつなぐ「循環のまち・ふくおか」

- 福岡市に関わる全てのステークホルダー(市民・事業者・NPO団体等)の参画を目指します
- 持続可能な社会を実現し、安全・安心な生活環境を将来に受け継ぎます
- 地域循環共生圏の形成により地域の活力が最大限発揮される循環のまちを目指します

■ 数値目標

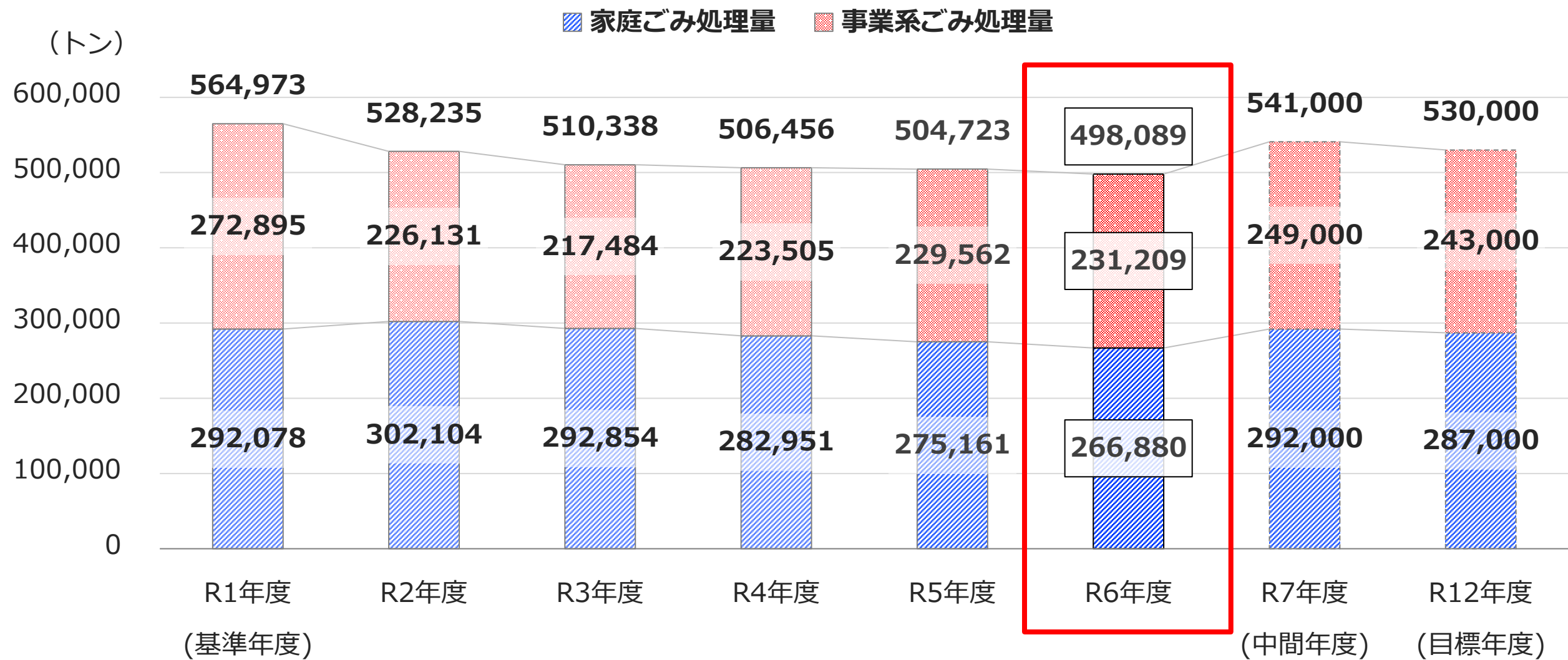
項目		令和元年度 (基準年度)	令和7年度 (中間目標)	令和12年度 (目標年度)
目標①	ごみ処理量	56.5万トン/年	54.1万トン/年 (▲2.4万トン)	53.0万トン/年 (▲3.5万トン)
目標②	市民1人1日あたり 家庭ごみ処理量	501g/人・日	488g/人・日 (▲13g)	476g/人・日 (▲25g)
目標③	1事業所1日あたり 事業系ごみ処理量	13kg/所・日	11kg/所・日 (▲2kg)	10kg/所・日 (▲3kg)

■ 重点3品目

可燃ごみ組成の上位3品目である古紙、プラスチックごみ、食品廃棄物を重点3品目と位置付け、重点的に減量施策を実施。

(2) 数値目標について(①ごみ処理量)

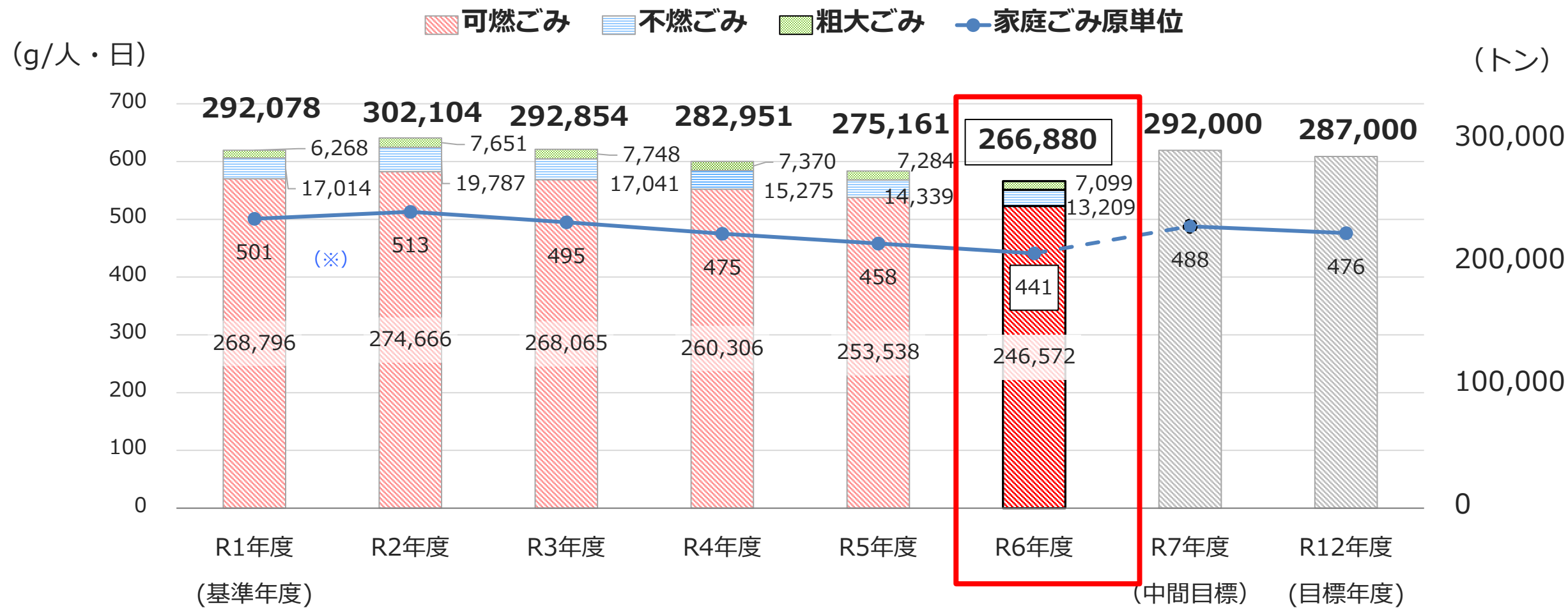
■ ごみ処理量の推移



- 令和6年度のごみ処理量については、令和5年度と比べ、約7千トン減少し、約49万8千トンとなった。
- 家庭ごみ処理量については、令和5年度と比べ、約8千トン減少し、約26万7千トンとなった。
- 事業系ごみ処理量については、令和5年度と比べ、約2千トン増加し、約23万1千トンとなった。

②市民1人1日あたりの家庭ごみ処理量(家庭ごみ原単位)

■ 家庭ごみ原単位の推移



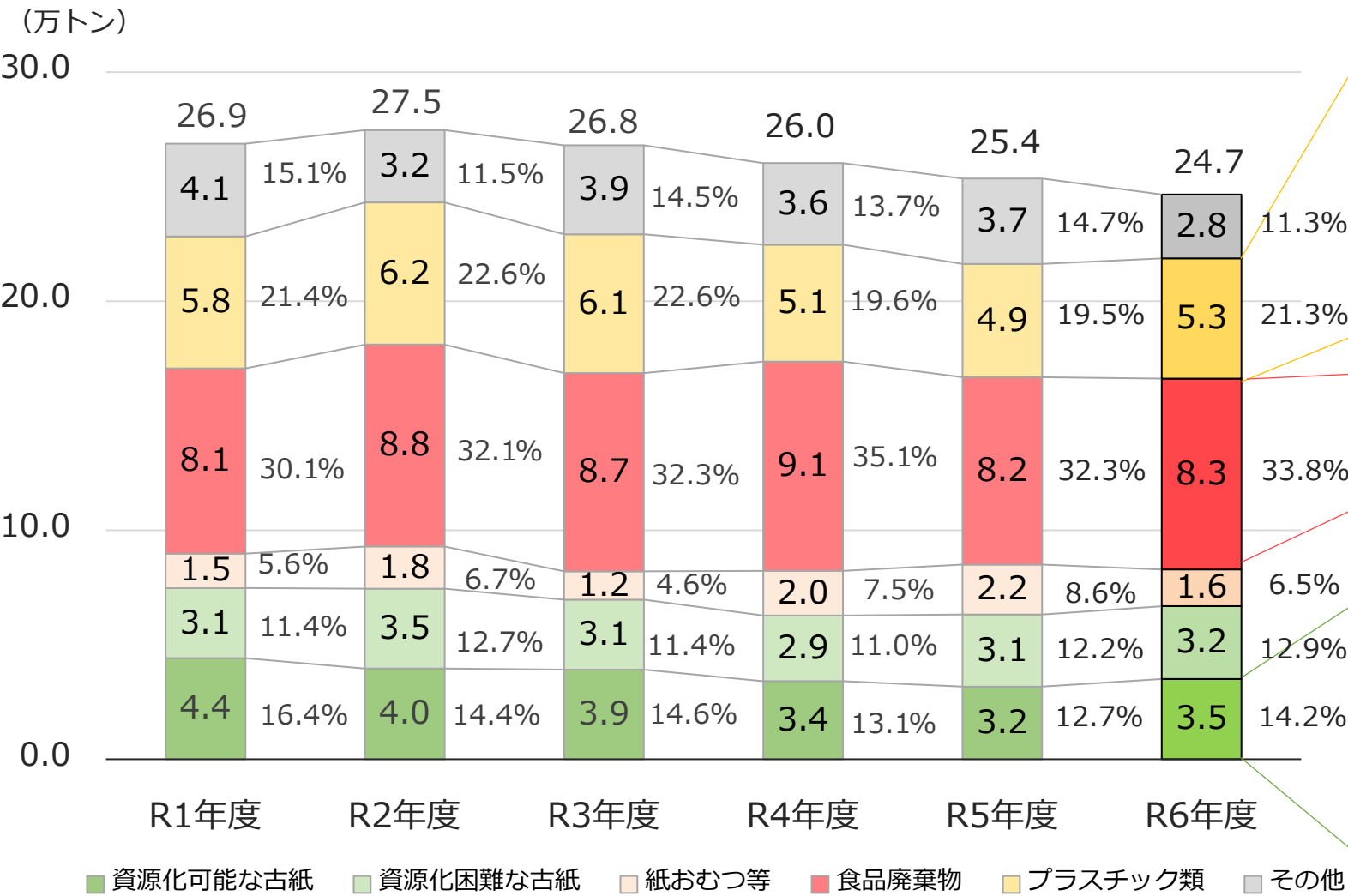
推計人口	1,592,657 (※)	1,612,392	1,619,585	1,631,409	1,642,571	1,656,737	1,638,000	1,649,000
------	------------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

※令和元年度の家庭ごみ原単位及び推計人口は計画値。

- 令和6年度の家庭ごみ原単位は441g/人・日で、人口が増加する中、ごみ処理量が令和5年度と比べ約8千トン減少したことにより、17g/人・日減少した。

【参考】家庭系可燃ごみの組成

家庭系可燃ごみの処理量の内訳



プラスチック類内訳 単位：万トン

	割合	重量	R5比較
包装用ビニール袋	0.6%	0.2	0.1
レジ袋	1.0%	0.2	△0.1
その他容器包装	13.4%	3.3	0.2
発泡トレイ	0.7%	0.2	0.1
ペットボトル（混入）	0.7%	0.2	－
その他（製品プラ等）	4.9%	1.2	－
計	21.3%	5.3	0.4

手つかず食品 単位：万トン

	割合	重量	R5比較
手つかず食品	3.3%	0.8	△0.1

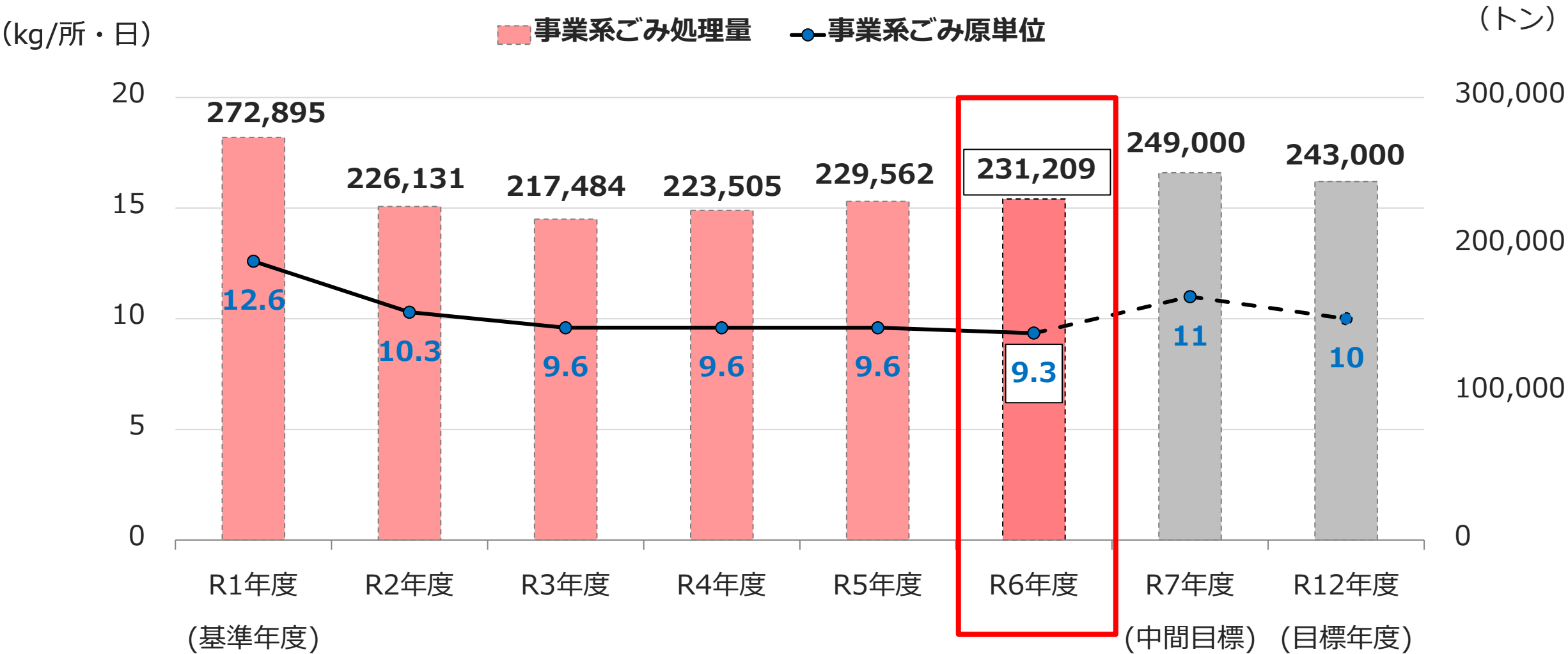
資源化可能な古紙内訳 単位：万トン

	割合	重量	R5比較
段ボール	0.9%	0.2	△0.1
新聞	1.4%	0.3	0.1
雑誌・広告	2.7%	0.7	－
包装に用いられた紙	3.9%	1.0	0.1
紙パック	0.6%	0.1	－
その他紙類	4.7%	1.2	0.2
計	14.2%	3.5	0.3

- プラスチックごみについては、レジ袋は微減しているものの、容器包装プラスチックなどの排出量が増加している。
- 食品廃棄物は、微増しているが、手つかず食品は減少している。
- 古紙については、資源化可能な古紙は増加しているものの、紙おむつの減少により全体としては減少している。
- その他については、剪定枝等を含む木片・わら類が大きく減少している。

③1事業所1日あたりの事業系ごみ処理量(事業系ごみ原単位)

■ 事業系ごみ原単位の推移

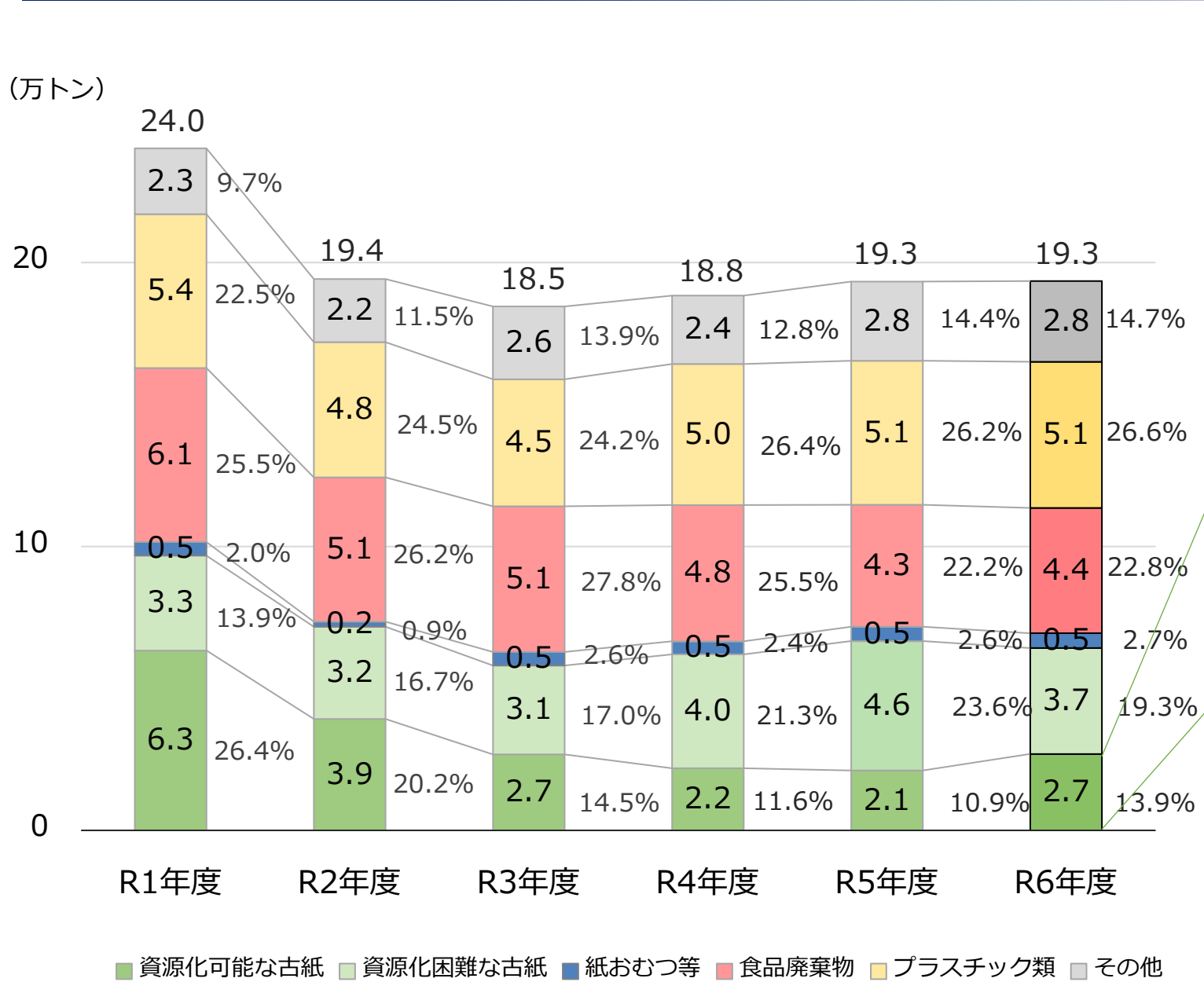


事業所数	59,004	60,378	62,201	64,009	65,502	67,773	64,000	68,000
------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

- 令和6年度の事業系ごみ原単位は9.3kg/所・日で、令和5年度に比べ、ごみ処理量は約2千トン増加しているが、事業者数も増加しており、事業系ごみ原単位は0.3kg/所・日の減少となった。

【参考】事業系可燃ごみの組成

■ 事業系可燃ごみの処理量の内訳



【参考】リサイクルベースの搬入量

単位：トン

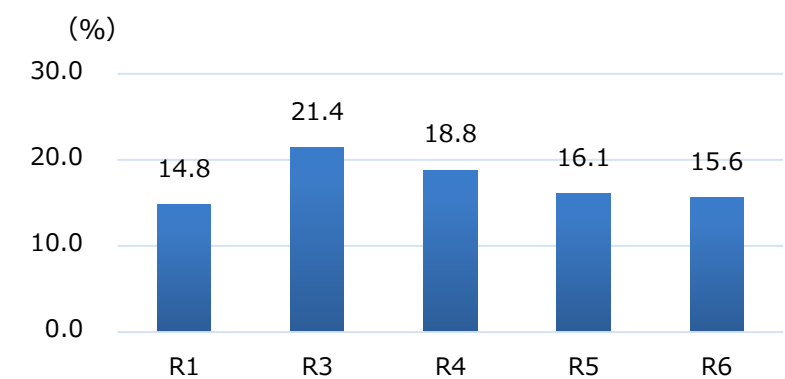
R1	R2	R3	R4	R5	R6
7,544	9,272	10,048	9,531	9,381	9,082

資源化可能な古紙内訳

単位：万トン

R5	割合	重量	R5比較
段ボール	0.7%	0.1	△0.2
コピー用紙	1.5%	0.3	—
シュレッダーダスト	1.8%	0.4	0.1
新聞紙	0.5%	0.1	—
本・雑誌	1.6%	0.3	0.2
その他紙類	7.8%	1.5	0.4
計	13.9%	2.7	0.6

【参考】直近1年間のテレワーク実施率



国土交通省 「令和6年度テレワーク人口実態調査—調査結果—」より

- 事業系可燃ごみの処理量については、新型コロナの影響が縮小し、経済活動が再開しているが、横ばいで推移している。
- テレワークからオフィス回帰が進んだことにより、資源化可能な古紙の排出量が増加したと考えられた。適正分別の指導・啓発や資源化施設への誘導が必要。

(3) 令和6年度ごみ減量施策の実施状況(重点3品目)

古紙

古紙の資源化推進

雑がみリサイクルの推進

- ・小売店と共同で雑がみリサイクル（雑がみの種類や出し方）を啓発するキャンペーンを実施

地域集団回収のDX化

- ・地域団体や回収業者などの負担軽減やペーパーレス化のため、手続きのオンライン化を推進



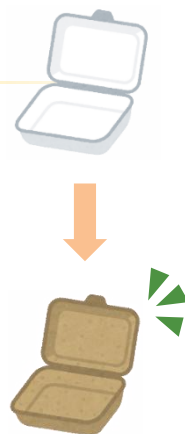
プラ

プラスチックごみ対策

イベントでのワンウェイプラ削減支援

環境配慮型容器の普及促進のため、
地域イベント等での導入支援や啓発を実施

配布実績	地域イベント	41校区
	その他イベント	4イベント



指定袋の小袋化、ばら売り

- ・可燃ごみ用指定袋に新たに10Lサイズを試行導入
 - ・レジ袋の代わりに指定袋を販売するばら売りの試行実施（可燃ごみ用 10L・15L）
- 販売数：77万枚（R6.11～）



プラスチックの分別収集導入に向けた取組み

令和9年2月のプラスチックの分別収集導入に向け、
戸別収集モデル事業を実施するとともに、再商品化事業者の
公募など、収集運搬やリサイクル体制の構築に向けた取組み
を実施。

- ・プラスチック製品回収モデル事業（拠点回収）
回収量：約11トン
- ・プラスチック分別収集モデル事業（戸別収集）
回収量：約10トン



令和6年度ごみ減量施策の実施状況(重点3品目)

食品

食品廃棄物の削減

事業所から出る食品廃棄物の資源化推進

飼料化・メタン化処理費用の補助

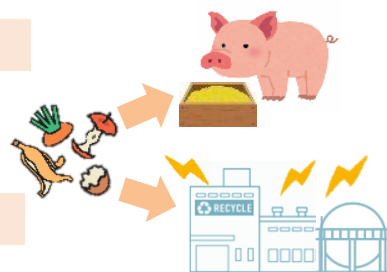
食品廃棄物の飼料化・メタン化による処理費用の一部を補助

補助額

1 kgあたり 4 円
(通常：1 kgあたり14円)

補助枠

5,200万円



保管場所整備の補助

食品廃棄物の分別に伴うごみ保管場所の新設や改修費用を補助

補助額

上限10万円

補助枠

500万円



事業用生ごみ処理機(堆肥化)の購入費補助

生ごみ堆肥を
全量自ら消費する場合

➤ 上限50万円

生ごみ堆肥を
半量以上自ら消費する場合

➤ 上限25万円



生ごみ堆肥の活用

事業者が使いきれない生ごみ堆肥を回収し活用
事業者によるコミュニティガーデン等の取組みを支援



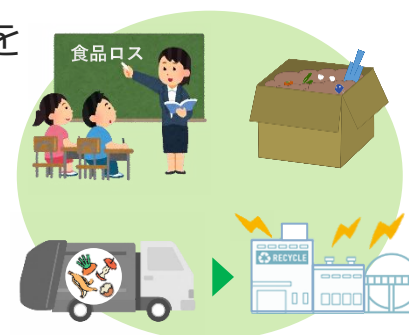
○福岡エコ運動協力店

令和6年度末：1,000店舗

食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業

モデル小学校において、給食の食べ残しを減らす取組みや調理くず等の堆肥化、メタン化施設での資源化に取り組み、効果や拡大に向けた課題の検証を実施

○モデル小学校：6校



民間施設等における食用油の回収

スーパーマーケット等で家庭から出る食用油を回収し、バイオディーゼル燃料にリサイクル

○回収量：5,830kg



フードドライブの推進

家庭で使い切れない未利用・未開封食品を回収し、子ども食堂など必要としている団体に提供する活動



未利用・未開封食品
を回収拠点に
持ち寄る

集めた食品をフード
バンクへ届ける

フードバンク
で保管・配送

支援を必要とし
ている団体等に
寄付

○公共施設等で実施 回収量：3,945個（1162.9kg）

(4) 令和7年度ごみ減量施策(重点3品目)

古紙

古紙の資源化推進

(地域や回収事業者と連携した古紙の出しやすい環境づくり) 新規

- ・回収事業者が管理する新たな紙リサイクルボックスを設置し、回収拠点を増設
- ・地域集団回収における担い手不足などへの対応のため、回収事業者と連携した、古紙回収の仕組みづくりに取り組む

(雑がみリサイクルの推進)

- ・雑がみリサイクルの認知度向上のため、雑がみの種類や出し方について印刷したトイレットペーパーや回収促進袋など、様々な媒体を活用した広報啓発を実施



プラ

プラスチックごみ対策

(プラスチックの分別収集導入に向けた取組み)

- ・令和9年2月のプラスチック分別収集導入に向け、収集運搬やリサイクル体制の構築に取り組むとともに、様々な媒体を活用した効果的な広報啓発を実施

(海洋プラスチックごみ対策の推進)

- ・海洋プラスチックごみ対策のさらなる推進のため、ラブアース・クリーンアップ清掃活動のほか、無関心層も楽しみながら環境問題に取り組めるワークショップや清掃イベントを開催



食品

食品廃棄物対策の取組み

(小学校における食の資源循環推進)

- ・小学校において食品ロスの削減や生ごみの堆肥化等に取り組む、子どもたちが食の資源循環を学び実践する機会を創出

(生ごみ堆肥を活用したコミュニティガーデンの開設支援)

- ・事業者による生ごみの堆肥化を推進するため、コミュニティガーデンの開設を支援



2 循環のまち・ふくおか推進プラン第2期実行計画 原案について

(1) 循環のまち・ふくおか推進プラン（改定：第2期実行計画）原案概要

- ・「循環のまち・ふくおか推進プラン(R3.8策定)」については、計画期間(10年)を2期に分け、5年ごとに実行計画を策定することとしている。
- ・R8～12を期間とする第2期実行計画を策定し、計画改定について原案を報告。現在、パブリックコメント中(10/24～11/25)。当初議会で成案配布予定。

第1期実行計画(R3～R7)の振り返り

【ごみ処理量の変化】

ごみ減量施策の取組みや、ライフスタイルの変化、ペーパーレス化の進展等により減少し、**目標の53万トン**を前倒しで達成

項目	R1年度 (基準年度)	R12年度 (目標年度)	R5年度 (実績値)
ごみ処理量 (トン)	56.5万	53.0万	50.5万

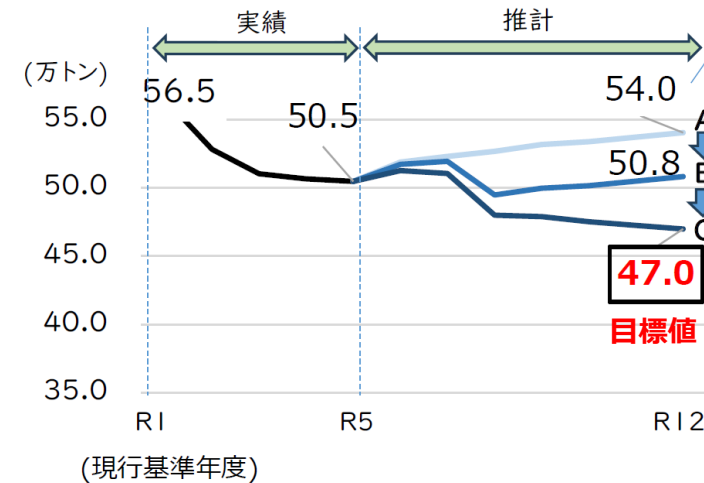
【課題】

- ・社会情勢の変化に対応した資源回収方法の検討
- ・プラスチックの分別収集導入に向けた、効率的な収集・リサイクル体制の構築
- ・事業系食品廃棄物の資源化施設への誘導



可燃ごみ組成の上位3品目である、「古紙」「プラスチックごみ」「食品廃棄物」を**重点3品目**として位置づけ、重点的な減量施策を実施

新たな目標値



○1次推計:A
(将来人口推計、事業所数の伸びをもとに推計)

○2次推計(上限):B
既に実施を予定している以下の施策により
3.2万トン減量
・プラ分別収集により2.6万トン減量
・事業系食品廃棄物資源化施設への誘導により0.6万トン減量

○2次推計(下限):C
今後実施する新規・強化施策により
3.8万トン減量

第2期実行計画(R8～R12)

■基本方針1 都市特性を踏まえた循環型社会づくり

【施策の方向性】

- 環境配慮型商品の更なる普及・促進
- 交流人口をターゲットとした3Rの促進
- 単身者・高齢世帯等の多様なライフスタイルに対応した資源循環の推進

【主な施策】

- 【新規】誰もが出しやすい資源回収方策
- 【強化】事業者の食品ロス削減
- 【強化】特定事業用建築物等における3Rの推進

集団回収見直し

【ごみ量の削減効果】

- ・古紙：3,300t
- ・食品：500t

■基本方針2 イノベーションとコミュニティによる地域循環共生圏の創造

【施策の方向性】

- 設計段階からの環境配慮型商品の開発支援
- AI・ICTを活用したシェアリング等の2Rビジネスの促進
- 多様なコミュニティによる都市の自然が調和した資源循環の確立

【主な施策】

- 【新規】プラスチックリサイクルの推進
- 【新規】サステナブルファッションの推進
- 【強化】事業系食品廃棄物の資源化推進
- 【強化】生ごみリサイクル推進事業
- 【強化】廃食用油の有効活用

プラ分別

【ごみ量の削減効果】

- ・プラ：30,500t
- ・衣類：1,300t
- ・食品：10,200t

メタン化施設への誘導

■基本方針3 持続可能なライフスタイルとビジネススタイルへの転換

【施策の方向性】

- 持続可能な消費行動への転換
- 手つかず食品、食べ残しなどによる食品ロスの削減
- 事業系古紙の資源化推進
- EGS投資の普及・促進

事業系古紙分別徹底

【主な施策】

- 【強化】家庭での食品ロス削減
- 事業系古紙の資源化推進
- マイバッグ、マイボトル等の普及促進

【ごみ量の削減効果】

- ・食品：1,800t
- ・古紙：11,400t
- ・プラ：2,400t

■基本方針4 適正処理の更なる推進

【施策の方向性】

- 適正処理に向けた基盤整備の推進
- 大規模災害等に対応できる廃棄物処理体制の構築
- 廃棄物処理における温室効果ガス排出量削減の推進
- 海洋プラスチックごみ対策、不法投棄対策の推進

【ごみ量の削減効果】

- ・小型家電等：200t
- ・自己搬入：4,300t

【主な施策】

- 【強化】リチウムイオン電池等発火危険物の適正分別の推進
- 小型家電の回収強化
- 自己搬入ごみの適正化推進
- 地域清掃活動の推進

■分野横断的施策

【主な施策】

- 【強化】SNSやショート動画など親しみやすいコンテンツによる情報発信
- LINEを活用したごみの分別情報発信
- 環境市民ファンド、事業系ごみ資源化推進ファンド

【ごみ量の削減効果】

- ・リサイクル可能びん：1,000t
- ・古紙：3,400t

(2) 数値目標及び取組指標の見直し

①数値目標 数値目標を達成したため、見直しを行いました。

目標値と実績値

項目		R1年度 (基準年度)	R12年度 (目標年度)	R5年度 (実績値)	新たな目標値 R12年度
目標①	ごみ処理量 (トン)	56.5万	53.0万	50.5万	47.0万
目標②	市民1人1日あたり 家庭ごみ処理量 (g/人・日)	501	476	458	400
目標③	1事業所1日あたり 事業系ごみ処理量 (kg/所・日)	13	10	9.6	9

②取組指標 ごみ処理量に関連する取組指標について、見直しを行いました。

目標値と実績値

項目		R1年度 (基準年度)	R12年度 (目標年度)	R5年度 (実績値)	新たな目標値 R12年度
指標4	リサイクル率	31.0%	35%	30.3%	37%
指標5	資源化可能な古紙の焼却量	10.7万トン	7.7万トン	5.3万トン	4.1万トン
指標6	食品廃棄物の焼却量	14.2万トン	13.2万トン	12.5万トン	12.1万トン
指標8	家庭系プラスチックごみの焼却量	5.8万トン	5.5万トン	4.9万トン	1.9万トン
指標9	手つかず食品の量	2.3万トン	1.8万トン	1.6万トン	1.5万トン
指標10	資源化可能な事業系古紙の焼却量	6.3万トン	3.6万トン	2.1万トン	1.1万トン